

季刊 すまいる



「古都京都の文化財」の一つで世界遺産に登録されている「清水の舞台」として知られる本堂周辺にはヤマモミジが広がり、夜間特別拝観期間（2022年11月18日～30日）にはライトアップされた見事な紅葉を愛でられる。本尊・十二面千手観音菩薩立像の慈悲を表す青いサーライトも京の街を照らし、さらに幻想的な世界をつくり出す。

清水寺



秋明菊

草丈 30cm～1m程で、ピンクや白の可憐な花を咲かせる。キンポウゲ科の多年草でアネモネの仲間。原産地は中国、台湾で、日本へは古い時代に入り、京都・貴船で野生種が多く見られたことから貴船菊（キブネキク）という別名も。秋の風情を感じさせ、茶花としても人気。

宇治田原町特産の干し柿、古老柿を使ったなますで、山城地域の郷土料理。古老柿は鶴の子という渋柿を使い、柿屋と呼ばれる何層もの棚の干し場に並べて乾燥させた後、むしろの上で転がしながら干す。全国的にも珍しい吊るさずにつくる干し柿。自然な甘みが大根、ニンジンと合い、おせち料理の一品としてもよくつくられる。

古老柿なます

ころかき



荒見神社 (城陽市)

旧富野荘村の産土神として信仰を集める。国指定重要文化財の本殿は慶長9（1604）年造営で、檜皮葺三間社流造。木鼻に若葉の彫刻が施されているなど細部の意匠が特徴的。本殿南側には檜皮葺二間社流造の御霊社が鎮座する。桃山時代の建築で京都府登録文化財。

まいたけ

ナラ、カシ、シイといったブナ科樹木の根元などに寄生する。1970年代に人工栽培に成功し、広く流通するようになった。天然ものに近いとされる原木栽培のものも、栄養価に優れ、免疫機能回復が期待されるβグルカン、カルシウムの吸収を高めるビタミンDが豊富。鍋物や汁物、炊き込みご飯、天ぷら、炒めものなどさまざまな料理に。



地域包括ケアを支える 地域密着型中小病院のまちづくりの実践

茨城県常陸大宮市を中心に、医療・介護・在宅医療など複数の施設を運営する「志村フロイデグループ」は、地域包括ケアを支え、安心して暮らせるまちづくりを目指して、常に新しい価値を追求し続けてこられました。その根幹を担う医療法人博仁会で理事長を務める鈴木邦彦さんに、その取り組みについて詳しいお話を伺いました。

地域包括ケアシステムは 全世代・全対象型へ

地域包括ケアシステムの概念は近年進化しており、高齢者が中心ですが多世代共生の仕組みへと変わってきています。それに関連して「地域共生社会」とは、今後日本社会全体が目指していこうとする目標であるのに対して、「地域包括ケアシステム」は地域共生社会を実現するための手段です。地域包括ケアシステムがすべての人を対象にするということは、まちづくりになると考えられます。これは地方では真の地方創生に、都市部では希薄化した地域コミュニティの再生につながると考えております。

地域包括ケアシステム推進体制の 構築に向けて

地域ケア包括システム推進のため、2019年に日本地域包括ケア学会を立ち上げました。また茨城県医師会では、県と協議をして委託を受け「地域ケア推進セ

ンター」を開設、ベテランのケアマネ、理学療法士などが常勤で、毎週運営会議を開いて市町村単位の地域包括ケアの構築を目指そうと取り組んでおります。在宅医療だけではなく、地域リハビリテーション、自立支援、介護予防なども一緒にできないかということを取り組みを進めています。在宅医療には拠点を位置づけることが望ましいと医療計画上ではなっているのですが、実際は9割くらいの都道府県がそれをやっていないとわかってきております。

2013年8月に日本医師会と四病院団体協議会は合同で2つの提言をしました。1つはかかりつけ医機能の充実・強化が必要であるということで、これは日医かかりつけ医機能研修制度の創設につながりました。もう1つは地域包括ケアを支援する中小病院・有床診療所の必要性です。それは2018年の診療報酬の同時改定の際に、部分的に実現しました。

今後の日本に必要な医療

今後の日本に必要な医療は、高度急性期医療と地域に密着した医療の2つです。高度急性期医療は高齢化と人口減少によってニーズが減っていくのに対して、地域に密着した医療のニーズは超高齢社会と共に増えていきます。それをどのようにみるかということについてお話しします。私は2008年から、毎年イギリス・フランス・ドイツなどの海外の訪問調査をしました。同じ社会保険制度のドイツとフランス、そして当時対GDP比での医療費が日本と同じくらいだったイギリスなど、どこか参考になる制度の国はないかと思っていましたら、理想的な制度の国はないというのが結論でした。少なくとも平時には、日本はよくやっているということもわかりました。今回はコロナ等を含めた緊急時の対応が求められているのですが、平時の体制が整っていないと、緊急時の対応は上手くいかないだろうと思っています。日本にはかかりつけ医がいますので、これをもう少し機能を充実・強化するのがよいだろうということで、日医かかりつけ医機能研修制度につながっています。

日本には中小病院、有床診療所そして専門医が開業する無床診療所があります。こういう既存資源を活用するのが現実的ではないかと考えております。

高齢者医療と介護の一体化とかかりつけ医の役割の拡大

地域包括ケアの担い手がかかりつけ医であり、それを育成するのが日医かかりつけ医研修制度です。そしてそれを担当する医療機関は診療所、有床診療所、中小病院であります。かかりつけ医は従来であれば外来だけをやっていればよかったです。介護保険のサービスを使用しますので、介護保険の知識も必要になります。ケアマネと話がしつかりできるようにならなければいけないということですね。認知症も軽度から中重度まで幅がありますが、軽度の方は生活支援、介護予防が必要になってきます。ロコモ（運動機能の低下により日常生活に支障をきたす状態）や、フレイル（身体的機能や認知機能の低下がみられる状態）、サルコペニア（加齢による筋肉量の減少）にはリハビリや栄養の知識が必要になります。障がい者や子ども支援は福祉になりますし、健康寿命や健康経営に関しては保健になると思いますが、このようにかかりつけ医の皆さんが、地域において元気高齢者の就労・社会参加から子育て支援を通じて次世代の育成まで、まちづくりにも関わっていただくということ、もつと地域や社会に目を向けましょうということをお願いしてきました。

従来の急性期の大病院を頂点として、我々かかりつけ医が一番下の、医療のみの垂直の連携中心から、かかりつけ医にぜひリーダーになっていただいて、訪問看護師や地域包括支援センター、回復期病院やケアマネジャーなどと水平に同じ目線で連携をすることが、まさに地域包括ケアシステムということになります。そして急性期の大病院はその外側で最後の砦になっていただきたいということです。



茨城県常陸大宮市の高齢化と政策

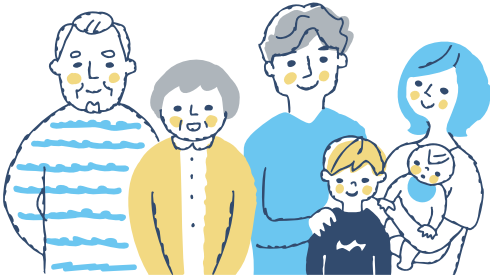
私の地元の話に移ります。茨城県北西部の常陸大宮市という所ですが、高齢化率が現在38.03%と、2040年の日本の高齢化率を先取りしているような状況です。2045年の人口構成を見ますと、なんと90代の女性が一番多くなるのがほぼ確実ということになっていて、しかも生産年齢人口が半減します。ではこの90代の女性を誰がどうやって支えるのかということになるわけで、その頃には高齢化率が50%を越えるということが確実に、我々にとっては他人事ではないという状況になっています。

一方、常陸大宮市の一番大きな産業は、我々の分野である保健衛生・社会事業で、全国的にも高い割合の方々が勤務をされています。産業的には一番大きな産業になっています。

常陸大宮市の2022年4月の広報より、今年度の重点政策は、1つめが「若者・女性が住みやすく、子育てしやすいまちの実現」、2つめが「学力向上にコミットする教育の推進」、3つめが「観光を軸とした地域振興」が3つの柱ということで、高齢者のこの字も入っていないのはどうしたことかと思われるかもしれませんが、私たちからすれば、高齢者政策はもうルーチンな業務になっていて、子育て支援に本格的に乗り出すことができているというふうな考えております。常陸大宮市の

人口は2022年4月現在で38,318人、毎月地元の新聞に人口の増減が出るのですが、増加したということはなく、先月は月12人の減少で少なかつたな、という感じです。

私たちのグループは仕事と子育ての両立にもずっと力を入れており、最近その結果が数字として出てくるようになりました。1,000人あたりの出生率が、平成24年度の18.5が令和3年には29.1と右肩上がりになっていきます。我々のようなやり方がひとつのモデルになるのではないかと思っています。元々女性が働きやすい職場はありますし、職員同士が結婚して、我々の地域ですと30才過ぎくらいに庭付きの一戸建ての家が建ちますので、職住接近でいろんな意味でゆとりがあり、子育てしやすい環境にもなっていると思います。もっとこういうことが進めば少子化にも役に立つのではないかと思っています。



病院を中心にしたまちづくり

志村フロイデグループの子育て支援

私共の志村フロイデグループは、医療法人博仁会、社会福祉法人博友会、学校法人志村学園の3つの法人からなっており、1,150名の職員が在籍しております。29年前には職員数は40名くらいでしたので、介護保険などの波に乗って大きくなったと思います。

国が促進する子育て施策として厚生労働省が認定する子育て支援企業としての登録を行い、「ぐるみん認定マーク」を取得しています。また産休・育休・短時間勤務の促進を行い、育休取得率は100%となっております。志村フロイデグループ独自の取り組みとしては、病児・病後児保育も行う「フロイデキンダーガルテン」を開設し、けがや病気によって集団保育が難しいお子さんを一時的に預かることができる環境を整えました。今は市の補助も充実してきましたので、無料にいたしました。子育て世代の相談窓口として「仕事と子育て両立支援センター」を設置し、ベテランの子育て経験者が相談に乗っています。また子育て世代の住まい支援として、市内に住居を建築する資金の支援として「定住祝い金」50万円を支給しています。また大都市部からの若い世代の移住をすすめるため、病院が中心となって空き家に関する周知活動も行っております。このように

病院を中心としたまちづくりで、高齢化による人口減少から次世代の育成に力を入れております。

常陸大宮市は高齢化率の高い市ですのでもちろん60才以上の職員もたくさんおります。60才以上の職員は全体の17.6%、そして65才以上の職員は全体の9.9%です。平成28年度から令和3年度までの60才以上の中途採用者数は合計で117名いらっしゃいます。

経営目標とまちづくり

我々の経営理念は、地域リハビリテーションの考え方に沿って、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために必要な保健・医療・福祉の総合的なサービス提供に努めること、経営目標は、県央・県北西部のリハビリセンターと高齢者・障がい者総合ケアシステムの確立を実現することです。地域リハビリテーションは、現在の地域包括ケアシステムの源流になる考え方になっております。

地域密着型中小病院と有床診療所は、急性期大病院との連携や診療所の在宅支援だけではなく、行政や介護との連携、それから医師会や地域への人材派遣、まちづくりへの参画などが今後求められてくるのではないかと考えております。

我々の目標が、地域の超高齢化対策、少子化対策・人口減少対策、地域の人材育成、中心商店街の活性化などと一致していることに気がつきまして、その時に

来「中小病院は地域と運命共同体」ということをいってまいります。我々中小病院は、人口が減少したから他へ移るといわれるわけにはいきません。ただ人口が減ると患者数も減りますので、病院を中心としたまちづくりの必要性があるわけです。

コンパクトシティというのは国交省が位置づけており、人口が20〜30万人、我々の地域というと水戸市が27万人くらいですので、そういったところが対象になります。私はそれだけではなくその周辺の3万〜5万人の町をコンパクトタウン、一番小さな3〜5千人の町村をコンパクトレゾジと位置付けて、診療所や郵便局、床屋、コンビニ、デイサービスなどのミニママセットを計画的に整備していくことが地域活性化に必要なだろうと考えております。

在宅支援体制

我々は在宅支援にもかなり力を入れていて、病院の隣に志村フロイデ地域包括ケアセンターという訪問サービスのセンターから24時間対応の訪問介護や訪問看護などのサービスを提供させていただいております。また病院と地域にあるサテライト施設をつないで、情報を共有する会議を毎朝開催し、様々な問題をミーティングによって解決して円滑な運営に役立てています。配食サービスも広範囲で行っており、健康支援型の配食サービスによるフレイル予防にも取り組んでおります。

地域とのつながり

多世代地域交流拠点としてサ高住や、アクティビティセンター、リハビリ公園やカフェなどを配置して、医療機関を中心としたまちづくりを進めています。また介護や看護その他の医療系専門職の職員で、地域活性化プロジェクト「フロイデDAN」を発足し、地域の人々のつながりや幸せ創りを目指しています。職員だけで賄えない部分は、地域から募ったボランティア「フロイデサポーター」に、買い物支援やイベント、地域見守りなどの運営サポートをお願いしています。コ

ロナで中断しておりますが、「ひたちおのみや楽市」など大きなイベントを開催することで、誰もが気軽に集まれる場所を提供してきました。社会や地域の環境を整備改善し、住民が社会参加することでゼロ次予防にもつながると考えております。そのような取り組みを続ける中で、「フロイデDAN」は、行政の各種計画への参画を求められるようになりました。現在では令和2年に常陸大宮市が計画した常陸大宮駅周辺整備計画に、我々のまちづくり計画が組み込まれた形になっております。

緊急地域支援

今回の新型コロナウイルス感染症の発生で、元々孤立しやすい山間部地域の高齢者は家族との交流支援が途絶え、食料も確保できるかどうかかわからないような状況に追い込まれました。そこで、緊急地域支援として、必要な買い物代行や配食サービス、運動や栄養指導を志村フロイデグループのSFG緊急地域支援チームが行なうことになりました。そこで活動する期間に地域住民のニーズを把握することで、コロナ禍でも継続したサービス提供へと進化致しました。WEBを活用したサロンや少人数が集えるイベントなど、より安全な小規模の活動を分散して行うことで地域住民に利用していただいております。またSNSを活用した映像によるサービスも動画を作ってYouTubeなどで配信しており、ネット環境の整っていない方にはDVDや紙ベースで情報を配布しております。市のホームページともリンクして、広く行き渡るよう工夫しております。

またより身近なところに小さな小さな拠点を増やして、高齢者が通いの場に参加しやすい取り組みも進めております。

地域共生社会を実現するために

地域共生社会を実現するためには、高機能急性期大病院の計画的整備による集約化、地域包括ケアを支える地域密着型

中小病院の分散化、かかりつけ医機能のさらなる充実・強化の3条件が不可欠であると考えております。

2022年7月23日(土)京都市つ川病院文化講演会の内容から抜粋して掲載させていただきました。

PROFILE



鈴木 邦彦
Kunihiko Suzuki

1980年秋田大学医学部卒業。仙台市立病院、東北大学第三内科 国立水戸病院を経て、1996年志村大宮病院院長、1998年医療法人博仁会理事長に就任。医学博士、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医。2009年4月、日本医療法人協会副会長。2009年10月、2015年10月まで3期6年に渡り、中央社会保険医療協議会委員を歴任。

2010年4月から2018年6月まで日本医師会常任理事を務め、医療保険・介護保険・福祉(認知症を含む)、地域医療・薬事、病院・有床診療所を担当。2014年7月、2018年6月まで社会保障審議会介護給付費分科会委員を務めた。

2019年12月、日本地域包括ケア学会事務局長。2020年6月、茨城県医師会会長。

2022年4月、日本在宅療養支援病院連絡協議会会長。



スタッフの声

画像診断技術部門

画像診断技術部門では、一般撮影、X線CT、マンモグラフィー、MRI、血管撮影、超音波（エコー）検査などの画像を用いた検査を行なっています。主にX線を扱う検査とMRI検査を放射線技術室、超音波検査を超音波検査室の技師が担当しています。技師はそれぞれ日々スキルアップに積極的に取り組み、より安全で質の高い検査で医療に貢献することを目指しています。専門的な知識を活かして活躍中の技師4名に話を聞きました。

常に知識を深め技術を高めることで、 確実な検査を提供

放射線技術室で検査全般を担当しています。この仕事に就いて25年を超えました。

CT装置の管理も担当するようになった10年前に、X線CT認定技師という認定資格を取りました。検査のスキルは日々磨いていくものですが、認定資格を取ることで関連する知識の幅が広がりました。例えば、放射線（X線）を用いる検査は造影剤の量も含めて受診者様に必要最低限で適切かといった視点や、万が一の事故に備えたリスクマネジメントについてです。身につけたことを現場でフィードバックできるよう努めています。

CT検査は毎日50件前後行います。忙しい日でも自分から主体的に行う意識が持てるようになってから仕事にやりがいのようなものが出てきました。現場では、急な検査にも対応しつつ、できるだけお待たせせず全ての検査予定を確実に行うということも大切です。事故につながらないために「急いでいるときほどゆっくりやる」ことを心がけ、後輩指導にもあたっています。

今後は、すでに取り組み始めていますが、病院間で検査情報を共有できるようにするための「検査の標準化」、患者様別に最適な検査を提供する「オーダーメイド検査」をさらに進めていきたいと考えています。

／ モットー /
私のmottoは

「勉強し続ける」ですね。機械や技術は日々かわっていくので、常にアンテナを張るよう意識しています。



加藤 親

<放射線技術室>

診療放射線技師
X線CT認定技師

いい検査には患者様とのコミュニケーションも大切

技師になって30年近くになります。放射線技術室の検査全般を担当していますが、マンモグラフィー検査は私を含め3人の女性技師が担当しています。ピンクリボン運動が日本でも認知され始めた2001年頃に「検診マンモグラフィー撮影認定技師」という認定資格を取りました。病変に対してどのような写真を撮るのが最も医師が判断しやすいのかという視点や、より精細な画像を得るために必要な知識などを身につけました。

マンモグラフィーで検査する乳房は、体型によっても千差万別で、左右対称でもありません。ですが、求められる画像情報はどんな場合でも漏れなく出さなくてはなりません。そのためには知識を広く持つこと、また患者様とのコミュニケーションも重要になります。痛みを伴う検査ですが患者様にリラックスしていただき、検査中の体勢なども理由を説明しながら進めると理解して協力してくださる方が多く、漏れのない検査につながりますね。

受診者様、患者様には、検査にご理解いただくとともに乳がん検診の重要性もお伝えし、検診率アップにも貢献するよう心がけています。マンモの責任者として後輩育成にも努めています。

／ モットー /
私のmottoは

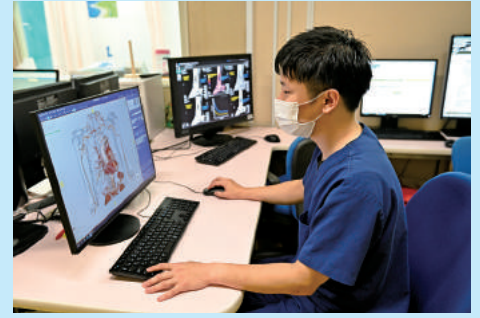
「1日1日を充実させる」こと。コツコツ日々の経験で得る知識の積み重ねと、勉強が大切ですね。



中川 敬子

<放射線技術室>

診療放射線技師
検診マンモグラフィー撮影認定技師
X線CT認定技師



きれいな3D画像を作成することで 医療に貢献したい



原田 良祐

<放射線技術室>

診療放射線技師
画像等手術支援認定技師
X線CT認定技師

8年前に当院に入職して、現在は他の技師と同様に放射線技術室の検査全般や画像を用いた手術の立ち会いなどを行っています。4年前にCT装置の管理担当になってからは、CTに関して学びを深め「X線CT認定技師」の認定資格を取り、今年「画像等手術支援認定技師」を取りました。

CTやMRIで撮る画像は輪切り状の一方なので、医師の診断や患者様への説明の補助となる3D画像を技師が作成しています。画像等手術支援認定は、この3D画像に関連する専門知識を身につけたという認定です。

3D画像の作成は、時間が空いた時に勉強の一環と思って作ってみたのが最初で、思いのほかきれいにできたのでより興味が沸きました。勉強会に参加したり、新しい認定制度だったので自分で情報を集めたりして学んでいきました。技師になって勉強するとは思っていなかったグラフィックに関する事なども含め、幅広い知識を得ることができたと思います。

きれいな画像というのは美的にということではなく、丁寧でわかりやすい画像。医師がいい画像だと言ってくれることが、患者様の役に立つことと心得て、これからも縁の下の力持ちとして診断、診療を支えられるよう努めていきます。

／ モットー /
私のmottoは

間接的な仕事だからこそ、「常に患者様のために」という意識を持つようにしています。

質の高いエコーが提供できるように、 経験を重ねていきたい



中谷 祐平

<超音波検査室>

臨床検査技師
超音波検査士

技師歴8年目で現在超音波検査を担当しています。臨床検査技師になって血液検査などの検体検査、心電図・肺機能検査・眼底検査などの生理機能検査もしながら同時にエコー検査の指導も受けました。

エコー検査は体の表面にプローブという機械を当てて臓器からはね返ってくる超音波を画像として写すもので、多くの経験を重ねて技術を身につけることが必要です。現在は「消化器領域」の専門知識と技術を身につけ同領域にて超音波検査士の認定資格を取得しました。資格取得の際に身につけた知識は検査中だけではなく報告書作成の際にも生かされていると思います。きつ川病院には多くの診療科があるため消化器疾患のほか、心臓や血管などの循環器疾患、甲状腺や皮下腫瘍などの体表領域疾患など様々な症例を経験することができます。今後はそのような領域についても経験を重ね、認定資格を取得できるようにチャレンジしていきたいと考えています。

患者様の利益に貢献できるよう、また医師からも信頼されるような技師になれるようこれからも努力していきたいです。

／ モットー /
私のmottoは

「迷ったときはしんどい道を選ぶ」です。いつか必ず自分にとってプラスになると思ってチャレンジします。

きづ川病院
News

病院内の行事や予定などのお知らせです。
また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載していますので、
ぜひご覧ください。

啓信会

ウェブ検索

<http://kyoto-keishinkai.or.jp>



啓信会グループ

理事長 中野 博美

京都きづ川病院

院長 中川 達哉

TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118

医療法人啓信会
介護老人保健施設

萌木の村

<城陽市寺田奥山1-6>

施設長 稲葉 栄子

TEL.0774-52-0011

FAX.0774-52-0701

医療法人啓信会
介護老人保健施設

ひしの里

<久世郡久御山町佐古内屋敷81-1>

施設長 植村 節子

TEL.0774-43-2626

FAX.0774-43-2627

医療法人
啓信会

きづ川クリニック

<城陽市平川西六反44>

院長 青谷 裕文

TEL.0774-54-1113

FAX.0774-54-1115

関連施設

●京都四条診療所

●四条健康管理センター

在宅サービス

訪問看護ステーション きづ川はろー

ヘルプステーション 萌木の村 21

ヘルプステーション リエゾン大津

ヘルプステーション リエゾン大久保

ヘルプステーション リエゾン四条

ヘルプステーション リエゾン健康村

ヘルプステーション リエゾン羽束師

短時間型デイサービスセンター 要支援のみ リエゾン萌木の村

短時間型デイサービスセンター 要支援のみ リエゾン宇治おおくぼ

短時間型デイサービスセンター リエゾン健康村

短時間型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里

短時間型デイサービスセンター リエゾン羽束師

認知症対応型デイサービスセンター リエゾン萌木の村

認知症対応型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里

居宅介護支援事業所 リエゾン大津

居宅介護支援センター 萌木の村

居宅介護支援センター リエゾン四条

ケアプランセンター リエゾン健康村

ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里

ケアプランセンター リエゾン羽束師

ケアプランセンター リエゾン宇治おおくぼ

城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

地域密着型サービス

小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村

小規模多機能ホーム リエゾン健康村

小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里

小規模多機能ホーム リエゾン羽束師

小規模多機能ホーム リエゾン宇治おおくぼ

グループホーム リエゾン萌木の村

グループホーム リエゾンくみやま

グループホーム リエゾン健康村

グループホーム リエゾン羽束師

グループホーム リエゾン宇治おおくぼ

サービス付き高齢者向け住宅

サービス付き高齢者向け住宅 えがお

教育部門

ケアスクールリエゾン 大久保校



医療法人 啓信会

京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119

URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>



日本医療機能評価機構
認定番号 JC2201 号